

置て吉也、

〔醒睡笑廢忘〕或僧新しき小刀の大なるをもちて、鰹をけづり居ける所へ、知音の人おもひよらず來れり、あまりにとりみだし、小刀を鰹と思ひ、いそぎかくし、鰹を小刀と思ひ、さし出し、此比關の小刀をもとめた御覽せよとぞ申ける、

〔寛政武鑑〕紀伊中納言治寶鄉 時獻上已 鯉節御樽

松平豊後守齊宣○鹿兒島 時獻上中寒七島

鯉節 伊達分三郎村芳○伊豫 時獻上在著鯉節

松平阿波守治昭○阿波 時獻上月鯉

節 松平土佐守豊策○土佐 時獻上六

鯉節八 鯉節中寒鯉節

木下主計頭俊懋○豊後 時獻上暑 鯉節

五島近江守盛運○肥前 時獻上御禮鯉節

〔甲子夜話〕松平土佐守ヨリ恒例獻上スル土佐節ト稱スル國產、近頃ハ御當地小網町ニ居ル魚賈大阪武兵衛ト云ヨリ、上品ヲカノ侯ニ調進シテ、コレヲ獻上セラル、トナリ、

〔見た京物語〕鯉節の事は、ふしとばかりいふ、

〔堀川後度狂歌集春〕元日

今朝祝ふ餅は筵に敷しまや花鰹さへかんなにてかく、

象潟亭盧橘

〔倭名類聚抄魚鳥〕鰯

唐韻云、鰯音快、今秦和名乎佐之、一云、與佐乎佐乎佐之、以竹貫魚出復州界、

〔箋注倭名類聚抄魚鳥〕按古以竹籤貫魚尾乾之、故名乎佐之、猶今俗貫魚目故呼米佐之、又主計寮

式有與治魚刺、蓋此所載與知乎佐之卽是然則乎佐之魚插歟、

〔倭訓栞前編三十二〕めざし 今しら魚、しらすの目を刺て、はしたるをも名く、

〔和漢三才圖會魚五十二〕鰯法魚、鰯俗云目字書云、以竹貫魚爲乾也、按白魚水魚等十頭相連爲鰯、

有鰯鮒之類鮮者不著鹽餠乾者雖極暑耐久、

〔延喜式二十一四〕凡中男一人輸作物○中與治魚刺、久惠脯、雜魚腊各二斤、